

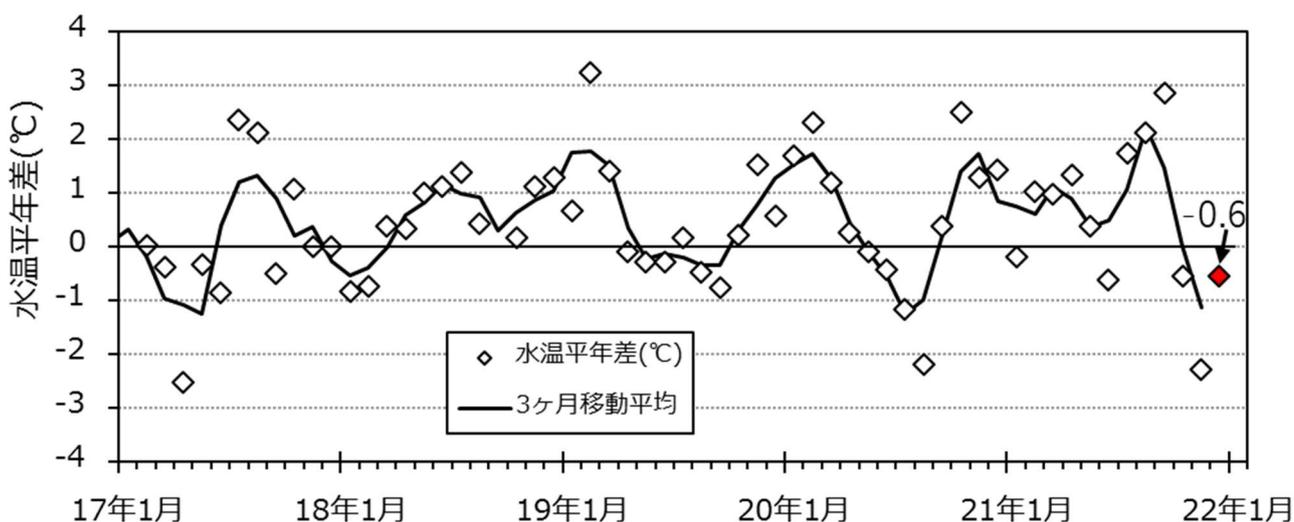
## 【水温の変動】

12月14、15日に、調査船海幸丸により渥美外海の観測を実施しました。

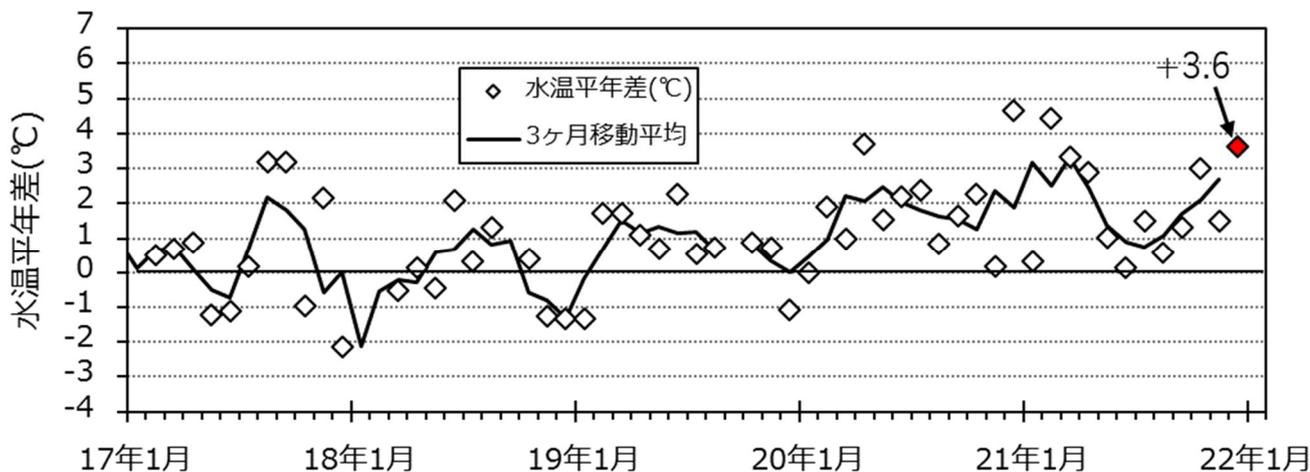
湾口部では平年差  $-0.6^{\circ}\text{C}$  でやや低めとなっています。沖合域は平年差  $+3.6^{\circ}\text{C}$  で極めて高めでした。

12月14日の人工衛星画像によると、黒潮は室戸岬沖から、大王崎沖の北緯29度付近まで南下した後、八丈島の西側を北上して大王崎に接近し、その後沿岸部を房総半島沖へ流れています。現在の流路は、流軸が御前崎沖の北緯33度以北を通過するAs型となっています。現在、黒潮が遠州灘へ接近しているため、沖合は高温傾向となっており、沿岸水の分布はごく沿岸部に限られています。

### 湾口部表層（A1）における水温平年差の変動



### 沖合域水深 200m（A4, A12, A19 の平均）における水温平年差の変動



※水温平年差は過去10年平均値との差

## 【渥美外海の海況】

渥美外海の水温は、表層で 15.4~22.1°C、水深 100m で 16.0~21.9°C、水深 200m で 13.8~17.2°C となっていました。水温の鉛直断面図をみると、渥美外海の水深 0~100m は、ほぼ均一な水塊となっており、また、各水深で等温線の傾きが非常に大きく、東向き強い流れがある模様です。クロロフィル a 濃度は、湾口部がやや高く、渥美外海では低くなっています。

## 水温の水平分布図と水温、塩分、密度、クロロフィル a 濃度の鉛直断面図

